



平成から令和へ地域の「思い」を乗せて 東郷学園義務教育学校開校！



東郷小学校・東郷中学校が、3月に閉校し、4月から東郷学園義務教育学校が開校しました。義務教育学校とは、どのような学校かご存じですか。東郷学園義務教育学校の仕組みや目指す姿、施設などについて紹介します。

開校した東郷学園義務教育学校の三戸瀬校長に、これからスタートする義務教育学校の特色や思いなどを聞きました。



▲東郷学園義務教育学校について語る三戸瀬校長

「これまでの小中学校と義務教育学校は、どのようなところが違いますか。」
「小学校1年生から中学校3年生までが同じ学校で生活し、9年間で子どもたちを育てる。これが義務教育学校の特色で、1年生から6年生までを前期課程、7年生から9年生までを後期課程とし、子どもたちは同じ教育方針の下で9年間学ぶこととなります。」

「職員も、小中学校一つの組織として、1年生から9年生まで全ての教育で継続的な指導・支援ができます。9年間を見通した弾力的な教育計画の編成が可能になり、従来の小学校にはなかった、前期課程での教科担任制や部活動などが可能になります。」
「これからどんな学校にしていきたいですか。」
「新しい学校という素晴らしい環境をつ

くっていただきました。このような環境の中で、私たち教職員は、「チャレンジ」をキーワードに一丸となって、新たなステージでの教育活動を展開していきたいと思っています。」
まず、本市のモデルとなる魅力ある学園。次に、これまで10年間で蓄積してきた小中一貫教育の成果を生かした学力向上やふるさと教育の充実、地域社会への貢献に努める学園。さらに、これまで研究推進してきたコミュニティ・スクールを継続して、保護者や東郷地域と連動した教育活動を推進する学園。
東郷地域のみならず、本市の教育・文化の拠点となるような学園を目指していきます。」



▲新しい教室で過ごす児童・生徒

児童・生徒の声

↑1年生男子
「新しい学校でお友達といっしょに楽しく過ごしたいです。」
↑1年生女子
「入学式の時、7年生のお姉さんが手をいっしょにつないでくれたうれしかったです。」
↑7年生男子
「勉強が難しくなってくると思うけど、部活動と両立を目指して頑張りたいです。」



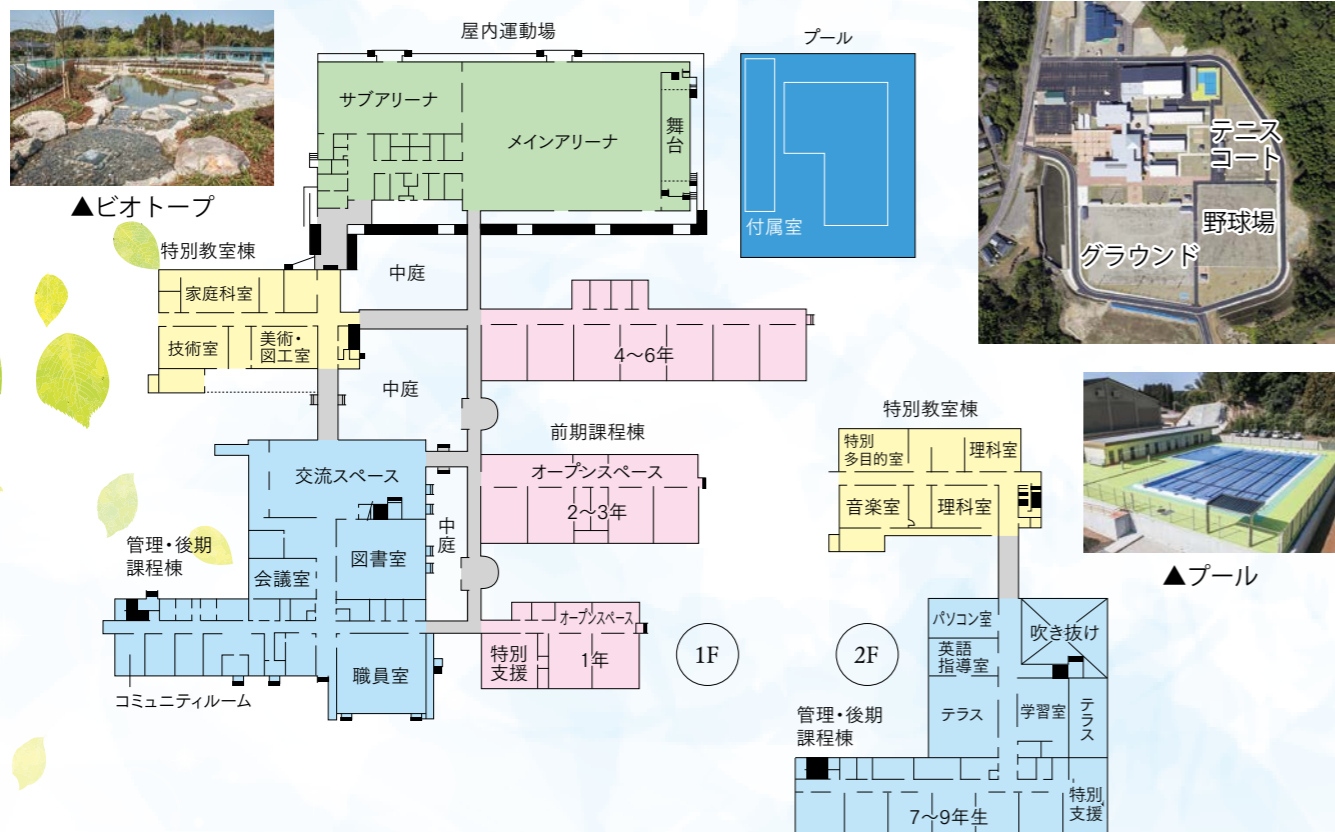
▲新しい学校の正門を通り、元気に登校する児童・生徒



▲入学式後に、新1年生と新7年生に防犯用品を贈呈

建 物
コンセプト

小中一貫校の特徴として、前期課程エリアを木造平屋建てとし、また、後期課程エリアを鉄筋コンクリート造の2階部分に配置することで、前期・後期各課程の独自性を確保しつつ、交流スペースを活用した異学年の交流や地域との交流の場を設けています。
また、図書室などの特別教室と屋内・屋外の運動施設を共有することで、9年間の連続性のある教育環境づくりを目指しています。



▲交流スペース
▲普通教室
▲図書室
▲理科室
▲屋内運動場

管理・後期課程棟、特別教室棟、屋内運動場・・・鉄筋コンクリート造
前期課程棟、付属建物(屋外トイレ・倉庫・東屋など)・・・木造
プール・・・ステンレス製
校舎：1階4,485㎡・2階1,918㎡、屋内運動場：1階1,845㎡

建物概要